

2018年度 修士論文

日本、韓国と台湾におけるアマチュア野球界とプロ野球
リーグの構造の比較研究

THE COMPARATIVE RESEARCH TO THE STRUCTURE
OF AMATEUR BASEBALL AND PROFESSIONAL
BASEBALL LEAGUE IN JAPAN, KOREA, AND TAIWAN

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

トップスポーツマネジメントコース

5017A047-1

鄭 翊宏

研究指導教員：平田 竹男 教授

目次

第1章 序論.....	1
第1節 背景 戦前日本、韓国と台湾の野球史.....	1
第1項 戦前の日本の野球史.....	1
第2項 戦前の韓国の野球史.....	2
第3項 戦前の台湾の野球史.....	2
第2節 先行研究.....	3
第3節 研究目的.....	6
第2章 研究手法.....	7
第1節 戦後の日・韓・台における野球競技の歴史.....	7
第1項 戦後の日本における野球競技の歴史.....	7
第2項 戦後の韓国における野球競技の歴史.....	7
第3項 戦後の台湾における野球競技の歴史.....	7
第2節 日・韓・台におけるアマ・プロ野球界の全体像.....	7
第1項 日本におけるアマ・プロ野球界の構造.....	7
第2項 韓国におけるアマ・プロ野球界の構造.....	7
第3項 台湾におけるアマ・プロ野球界の構造.....	7
第3節 日・韓・台におけるプロ野球リーグについての比較.....	7
第1項 日本プロ野球リーグの構造.....	7
第2項 韓国プロ野球リーグの構造.....	7
第3項 台湾プロ野球リーグの構造.....	7
第4項 日本プロ野球チームのバックグラウンド.....	7
第5項 韓国プロ野球チームのバックグラウンド.....	7
第6項 台湾プロ野球チームのバックグラウンド.....	7
第7項 日・韓・台におけるプロ野球の選手獲得の実態.....	7
第4節 日・韓・台におけるプレー環境の差.....	7
第3章 研究結果.....	9
第1節 戦後の日・韓・台における野球競技の歴史.....	9
第1項 戦後の日本における野球競技の歴史.....	9

第2項	戦後の韓国における野球競技の歴史.....	9
第3項	戦後の台湾における野球競技の歴史.....	10
第2節	日・韓・台におけるアマ・プロ野球界の全体像.....	11
第1項	日本におけるアマ・プロ野球界の構造.....	11
第2項	韓国におけるアマ・プロ野球界の構造.....	13
第3項	台湾におけるアマ・プロ野球界の構造.....	15
第3節	日・韓・台におけるプロ野球リーグについての比較.....	16
第1項	日本プロ野球リーグの構造.....	16
第2項	韓国プロ野球リーグの構造.....	17
第3項	台湾プロ野球リーグの構造.....	19
第4項	日本プロ野球チームのバックグラウンド.....	20
第5項	韓国プロ野球チームのバックグラウンド.....	21
第6項	台湾プロ野球チームのバックグラウンド.....	23
第7項	日・韓・台におけるプロ野球の選手獲得の実態.....	25
第4節	日・韓・台におけるプレー環境の差.....	27
第4章	考察.....	28
第1節	日・韓・台はMLBの影響を受けなかった原因.....	28
第2節	日・韓・台のアマ・プロ野球における共通・相違点.....	29
第1項	日・韓・台の野球界全体における共通・相違点.....	29
第2項	日・韓・台のプロ野球の仕組みにおける共通・相違点.....	30
第3節	日・韓・台合同プロ野球リーグの開催への提案.....	32
第5章	結論.....	35
第6章	謝辞.....	36
第7章	参考文献.....	37

図表目次

図1-2-1	世界中のプロ野球リーグ.....	4
図3-2-1	日本におけるアマ・プロ野球界の構造.....	11
図3-2-2	日本野球界の構図.....	12
図3-2-3	韓国におけるアマ・プロ野球界の構造.....	13
図3-2-4	韓国野球界の構図.....	13
図3-2-5	台湾におけるアマ・プロ野球界の構造.....	15
図3-2-6	台湾野球界の構図.....	15
図3-3-1	日本プロ野球NPBにおけるリーグ構成.....	16
図3-3-2	日本プロ野球NPBにおけるリーグの試合情報(2018).....	17
図3-3-3	韓国プロ野球KB0におけるリーグ構成.....	17
図3-3-4	韓国プロ野球KB0におけるリーグの試合情報(2018).....	18
図3-3-5	台湾プロ野球CPBLにおけるリーグ構成.....	19
図3-3-6	台湾プロ野球CPBLにおけるリーグの試合情報(2018).....	19
図3-3-7	NPBチームのバックグラウンド.....	20
表3-3-8	NPBにおけるチームの変遷.....	20
図3-3-9	KB0チームのバックグラウンド.....	21
表3-3-10	KB0におけるチームの変遷.....	22
図3-3-11	CPBLチームのバックグラウンド.....	23
表3-3-12	CPBLにおけるチームの変遷.....	24
表3-3-13	日・韓・台プロ野球における選手ドラフトの規定.....	25
表3-3-14	日・韓・台プロ野球における育成選手の規定.....	26
表3-3-15	近年日・韓・台プロ野球における新人ドラフト概況.....	27
表3-4-1	日・韓・台プロ野球リーグの選手給与.....	27
表3-4-2	日・韓・台における初めてのプロ入りが外国リーグである選手数 (1999～2018)	28
表4-2-1	日・韓・台の野球界全体における共通・相違点.....	29
表4-2-2	日・韓・台のプロ野球における共通・相違点.....	30
表4-3-1	AFC チャンピオンズリーグの試合制度.....	32
表4-3-2	アジア・ウィンターリーグ・ベースボールの試合制度.....	33
表4-3-3	日・韓・台合同プロ野球リーグ開催への提案.....	34

第1章 序論

第1節 背景 戦前日本、韓国と台湾の野球史

かつて、日本、韓国と台湾の学生野球チームは甲子園球場で共に試合を組む時代があった。それは朝鮮（現北朝鮮と大韓民国）と台湾が日本帝国の支配下に収まる時のことである。台湾は1895年以降、朝鮮は1910年以降日本の植民地となり、両地域に日本人によって野球が伝わった。

第1項 戦前の日本の野球史

日本における野球の普及はこの三ヶ国の中に最も早かった。1870年代に日本在住の外国人、キリスト教徒、アメリカから帰国した留学生たちによって野球が日本に伝来。その以降、第一高等学校（一高）の野球部が日本の野球を代表する「一高時代」（1870s～1900s）、1900年代の中頃から始まる「早慶戦」などを経て、早々学生の人気スポーツとなった。それに対して、学生の野球に従事するのを断とうとする野球害毒論争が全国の中学校校長の間に起こる時期（1911年）もあった。1915年大阪の朝日新聞社は同地域の毎日新聞との販売競争を勝ち抜くため、自社主催イベントを創出し、独占的な新聞を手に入れるのにした。そこに着目したのは大人気の野球であった。その背景で誕生したのは朝日新聞社主催の全国中等学校野球大会（現全国高校野球選手権大会）である¹。当時同社の社説では同大会に対して、「攻防の備え整然として、一糸乱れず、腕力脚力の全運動に加うるに（中略）、協力的努力を養わしむるは、吾人ベースボール競技をもってその最たるものと為す」と書かれ、当時の野球害毒論争を避けるため、野球大会を教育的、武士道的なイベントにさせる傾向が示された²。さらに1927年に全日本都市対抗野球大会が開始し、日本では1920年代にすでに学生・社会人の全国野球大会を確立した。また1936年にプロ野球が発足し、韓国と台湾と違い、日本は戦前においてアマ・プロ野球での定期的なリーグ戦・トーナメント戦が出現した³。

¹ 出典：小野容照、2017「帝国日本と朝鮮野球」。中央公論新社

² 出典：草野球の窓、「1911年『野球害毒論』」

<http://www.kusamado.com/contents/1911.html>（最終検索日：2018年12月15日）

³ 出典：野球殿堂博物館、「日本野球の歴史」<http://www.baseball-museum.or.jp/showcase/storage/history.html>（最終検索日：2018年12月15日）

第2項 戦前の韓国の野球史

(小野、2017) は戦前の韓国野球史を以下のようにまとめた。1905年に朝鮮現地における皇城キリスト教青年会では、米国人宣教師が朝鮮人青年教徒に野球を教え始めた。1910年、大日本帝国の支配下に入った後、朝鮮総督府鉄道局と同局が所有する龍山鉄道倶楽部によって社会人同士の野球試合を行われていた。一方、1905年以降朝鮮人による日本への留学も本格化し、その後、日本で留学する朝鮮人たちは留学生チームを結成し、母国に戻り、訪問試合と野球競技のルールを朝鮮半島に伝播していた。朝鮮で野球試合をアレンジする日本人と違い、西洋知識と高等教育を受ける朝鮮人留学生たちは野球を通して、母国を強国にさせるナショナリズムも朝鮮に拡散しようとしていた。いずれにせよ、日本発の「野球道」は大日本帝国の支配下に入った朝鮮半島に次第に拡散していた。日本による武断政治の政策に対する不満を唱える三一三独立運動が勃発した後、朝鮮総督は朝鮮への統治が緩和し、朝鮮人の言論・集会上の自由をある程度与えた。その中、全国中等学校優勝野球大会の朝鮮地区予選が1921年に、日本人主催の朝鮮神宮競技大会が1925年に、毎日新聞社主催の全鮮選抜チーム野球戦（1927年に朝鮮都市対抗野球戦に改称）が1926年に次々と開催され始めた。その一方、日本人による現地の野球振興と対抗するため、朝鮮人が推進する体育組織と野球試合も現れた。1920年に結成された民族運動団体である朝鮮体育会（1920年～1938年）の働きかけにより、同年に第1回全朝鮮野球大会を開催した。それは朝鮮人による最初の競技大会であり、朝鮮人のスポーツ史において大きな進展とされる。また、朝鮮神宮競技大会に対抗する全朝大会と朝鮮日報主催の全朝鮮中等学校野球リーグ戦（1925年～1931年）も出現。このように、1937年日中戦争が発生するまでに朝鮮半島では在住日本人と朝鮮人により、野球が振興され、現地の野球人口も着実に増加していた。

第3項 戦前の台湾の野球史

(林、2009) は戦前の台湾野球史を以下のようにまとめた。植民地時代の台湾では日本人によって初めて野球が普及した。台湾総督府中学校の校長が台湾における初めての野球チームを成立させた1904年以降、日本人教員や元

選手により、数多くの学生・実業団チームが結成された。現地ではチーム同士の競技大会だけではなく、当時日本からの野球チーム（早大）とメジャーリーグチーム、米国海軍チームなども台湾に赴き、交流試合を行っていた。そして、1923年台湾では第1回の全島中等学校野球選手権が開かれ（台北3校、台南1校が参戦）、優勝チームは日本に開催される全国中等学校優勝野球大会（現全国高校野球選手権大会＝夏の甲子園）に進出することができた。その中、1931年に台湾漢人、日本人と台湾原住民が結成した嘉義農林チームは夏の甲子園で準優勝を成し遂げ、その以降、台湾人が主力を担う学生チームは現地で増えていた。学生チームの他、1930年以降台湾側も成人チームを派遣し、日本現地の全日本都市対抗野球大会に参戦するようになり、好成績を残した台湾チームもあった。1934年5月、鉄道部、専売局などの実業団チームは台湾初の社会人野球連盟を結成した。それは台湾の野球史において、草レベルの学生試合から定期的に試合を組む野球連盟に邁進する重要な出来事であった。

第2節 先行研究

「メジャーリーグとその周辺国のプロ野球との関係から見る日本、韓国、台湾のプロリーグの共通点」

スポーツのグローバル化における新たな潮流は李（2014）がまとめた。

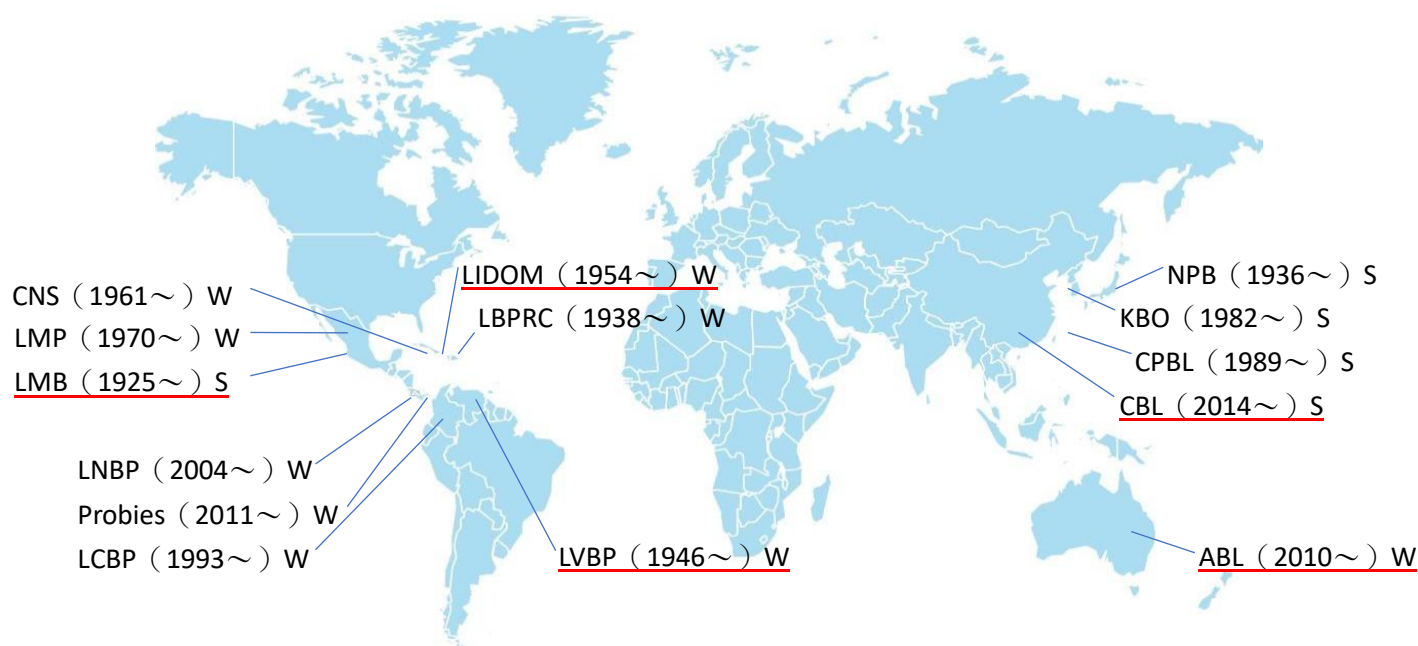
A・クラインはドミニカなどカリブ地域野球のMLBによる包摂に、周辺国の低開発の図式を見た。同氏は著書「シュガーボール」において、「周辺国の野球リーグは中核国への人的資源の供給源となり、その結果、周辺国はスポーツの世界においても低開発の状態にある。」と主張した。李（2014）は、「この構図の下では、カリブ地域のプロ野球が、アメリカのMLBのための選手育成の場という役割を脱して、MLBに匹敵するような、高い競技レベルでシーズンの長いプロリーグに発展することは、考えにくい。」と指摘した。

石原（2013）はクラインの理論を踏まえ、米国の四大メジャー（野球、アメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケー）などのプロスポーツでプレーするトップアスリートの報酬は、天文学的数字に跳ね上がっている。その一方で、米国の四大メジャーは人材獲得網も全世界に展開させ

ていった結果、アメリカ以外の国においてもプロ化が進展するが、興行として成立せず事実上、米国の人材育成の場となってしまう、米国からスカウトされずに自国で低報酬でプレーするプロアスリートが増加している問題を挙げている。その問題に対して、李（2014）は「ビジネスになりにくい小規模プロスポーツを発生させ、そこでは安価な労働力と化したアスリートの移動が展開されるのである。」と指摘した。

一方、このようなMLBによる周辺国を取り巻く巨大ビジネスの展開に対して、筆者はプロスポーツが繁栄している東アジアにおいて、MLBのビジネスに影響されないプロ野球リーグの存在を確認した。

図1-2-1 世界中のプロ野球リーグ



出典：台湾棒球維基館より筆者作成

（S=夏季プロリーグ、W=冬季プロリーグ、赤線=MLBからの業務提携、資本関与とMLBアカデミーが付いている）

図表が示す通り、MLBの周辺はリーグ・メキシコ・ベースボールを除き、他のプロリーグは冬季リーグとなった。つまり、MLBの周辺国のプロリーグらはMLBへ優秀な選手を送り出すシーズンの短い冬季リーグと化した。また、近年

MLBのビジネスの展開もアジアに広げようとした。(李、2014) は中国ではMLB発展中心というMLBアカデミーが設置され、中国の一般高校の中にMLBが直営の野球部を植え付けようとする旨を指摘した。2010年に開幕したオーストラリアン・ベースボールリーグ (ABL) の運営には、開幕からの5年間において、MLBからの出資・支援もあった⁴。

しかし、東アジアのプロ野球はほとんどシーズンの長い夏季リーグを実施している。さらに、今までMLBとの業務提携や資本関与などの連携がないプロリーグは日本NPB、韓国KBO、台湾CPBLであることがわかった。それはこの三ヶ国のプロリーグは開幕から今までの歩みにおいて、MLBのような巨大ビジネスを展開するプロリーグと直接関与せず、プロリーグの運営を自ら維持してきたことを示唆している。一方、従来はMLBの影響を強く受けなかったが、近年、日本・韓国・台湾のトップ選手がMLBに流出する傾向があるのも事実であり、今後この三ヶ国が連携した取り組みが必要だと考える。

上記の先行研究のまとめにつながる日・韓・台の比較研究が現存していないため、本研究には意義がある。そこで、筆者はこの日・韓・台のプロリーグの共通点から、この三ヶ国はどのような野球システムを用い、東アジアにおいてMLBの海外展開に強く影響を受けずに発展してきたかを明らかにするとともに、この三ヶ国の野球界の仕組みに対する比較研究を行うことで今後の発展策に関する示唆を得たい。

⁴出典：TSNA、「带你認識澳洲職棒」<http://www.tsna.com.tw/tw/news/show.php?num=13330>
(最終検索日：2018年12月15日)

第3節 研究目的

日本・韓国・台湾におけるアマチュア野球界及びプロ野球リーグ構造を比較することで、東アジアの野球界の発展策に関する示唆を得たい。

第2章 研究手法

日本、韓国、台湾（以下、日・韓・台とする。）のアマチュア野球界とプロ野球リーグに関する文献調査を行い、戦後野球史の時系列の整理、アマチュア野球の構図、プロ野球リーグの仕組みを比較し、分析を行う。

第1節 戦後の日・韓・台における野球競技の歴史

日・韓・台各国の第二次世界大戦後から1990年代にかけての取り組みについて時系列にまとめる。

第2節 日・韓・台におけるアマ・プロ野球の全体像

第1項 日・韓・台のアマ・プロ選手育成の仕組みについての比較

対象国の少年野球（小・中学校）、高校世代、大学世代、プロ野球の全国野球チーム数と各世代を統括する野球組織数を明らかにする上で、対象国の各世代の野球界における特徴を洗い出す。

第2項 日・韓・台の野球界の構図についての比較

対象国のアマチュア野球とプロ野球を統括する野球組織間の関係を、野球団体関係図で明らかにする。

第3節 日・韓・台におけるプロ野球リーグについての比較

第1項 日・韓・台のプロ野球リーグの構成

対象国のプロ野球リーグの組織図、リーグ運営の特徴といったリーグの仕組みを調査する。

第2項 日・韓・台のプロ野球チームのバックグラウンド

対象国のプロ野球リーグにおける各チームの親会社の業種、各球団の年間優勝回数、各チームの変遷について調査する。

第3項 日・韓・台におけるプロ野球の選手獲得の実態

対象国のプロ野球リーグにおける新人ドラフトのルールと、近年の新人指名の結果を調査する。

第4節 日・韓・台におけるプレー環境の差

対象国におけるプロ野球リーグの選手給与と、初めてのプロ入りが外国リーグの選手数から、この三ヶ国のプロ野球における選手のプレー環境の差を明らかにする。

第3章 研究結果

第1節 戦後の日・韓・台における野球競技の発展

第1項 戦後の日本における野球競技の歴史

1946年、戦前に制定された野球統制令の廃止に伴い、戦争激化で中止された学生・社会人・プロ野球が復活し、戦前に現れたトーナメント戦とリーグ線は続行された。この時期において、戦前に現れた野球組織らが相互に統合・合併され、日本高等学校野球連盟と全日本大学野球連盟が出現し、両組織は子団体として日本学生野球協会を構成した⁵。アマチュア社会人野球を統括する日本社会人野球協会（現日本野球連盟）も1949年に創設された⁶。1954年アジア野球選手権大会の開催がきっかけで、国際試合への代表チームの派遣、または国内での国際大会運営にあたる組織が必要である認識から、同年日本アマチュア野球協会（現全日本野球協会）が設立された⁷。1950年にプロ野球2リーグ制が決まり、さらに3年後テレビの野球実況放送が始まった。日本のプロ野球はリーグの仕組みと試合の放映面は早々定着され、戦前に設立されたプロ野球の体制は戦後さらに堅固になった⁸。高校、社会人野球とプロ野球の仕組みは戦後素早く定着された一方、中・小学校世代にあたる少年野球を統括する組織の出現は遅れを取り、1990年代に次々と現れた。

第2項 戦後の韓国における野球競技の歴史

5出典：公益財団法人日本学生野球協会、「沿革」<https://www.student-baseball.or.jp/jsba/outline/outline.html>（最終検索日：2018年12月18日）

6出典：公益財団法人日本野球連盟、「日本野球連盟について」<http://www.jaba.or.jp/gaiyou/index.html>（最終検索日：2018年12月18日）

7出典：一般財団法人全日本野球協会、「沿革・歴史」<https://www.baseballjapan.org/jpn/bfj/history.html>（最終検索日：2018年12月18日）

8出典：野球殿堂博物館、「日本野球の歴史」<http://www.baseball-museum.or.jp/showcase/storage/history.html>（最終検索日：2018年12月18日）

韓国では1946年に開催された「青龍旗全国高校野球選手権大会」を始め、高校野球における国内大会が次々と開催された⁹。韓国実業野球連盟は1955年から白虎旗実業野球大会を開催することで、社会人野球の人气が高まった。このように、1960年代と1970年代の韓国では高校・社会人野球は人気を博していた。しかし、この構図は1981年にプロ野球KBOの発足後に覆った。当時多くの高校・社会人優秀選手はプロ入りするため、国内のアマチュア野球の人气は急に低落していた。代わりに出現したKBOは韓国初のプロスポーツリーグだから、1982年開幕直後、迅速に人気を集めていた。プロ野球の開幕以来、韓国のアマ野球規模は小さく維持してきた¹⁰。

第3項 戦後の台湾における野球競技の歴史

戦前、在台日本人により、台湾の野球の発展は火付けられたが、戦後の台湾を統治し始めた国民党政府は野球を植民地時代の産物として蔑み、戦後15年間（1945年～1960年）にわたって、政府からの野球振興といった政策は実施されなかった（趙、2008）。しかし、台湾各地では国営・民営企業によって実業団チームを結成し、自発的に試合を組んでいた。つまり、台湾では民国政府初期の政治・経済状況の不穏に影響されず、各地で野球の試合が頻繁に行われるようになった¹¹。1965年から1968年にかけて、「紅葉小学校野球チーム」は次第に台湾全域で名を轟かせていた。当初紅葉チームは国内で多数の試合において優勝を遂げ、国民から注目を集めるようになった。さらに1968年8月、同チームは台湾に訪問してきた日本人小学生チームと対戦し、7対0の圧倒的なスコア差で日本チームに破った。この一戦は当時の台湾国民の間に野球熱を湧かせた。1969年の「金龍少年野球チーム」はその年の第3回リ

9出典：台湾棒球維基館、「青龍旗全國高校野球選手権大會」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E9%9D%91%E9%BE%8D%E6%97%97%E5%85%A8%E5%9C%8B%E9%AB%98%E6%A0%A1%E9%87%8E%E7%90%83%E9%81%B8%E6%89%8B%E6%AC%8A%E5%A4%A7%E6%9C%83>（最終検索日：2018年12月18日）

10出典：台湾棒球維基館、「韓國實業棒球聯盟」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E9%9F%93%E5%9C%8B%E5%AF%A6%E6%A5%AD%E6%A3%92%E7%90%83%E8%81%AF%E7%9B%9F>（最終検索日：2018年12月18日）

11出典：台湾棒球維基館、「戦後时期的台湾棒球（1945年代～1960年代）」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E6%88%B0%E5%BE%8C%E6%99%82%E6%9C%9F%E7%9A%84%E5%8F%B0%E7%81%A3%E6%A3%92%E7%90%83%E7%BC%88%E5%B9%B4~1960%E5%B9%B4%E4%BB%A3%E7%BC%89>（最終検索日：2018年12月18日）

トルリーグ・ワールドシリーズにおいて5対0で米国代表チームを破り、さらに台湾の少年野球を全盛期に迎えさせた。この時期以降の台湾政府は初めて自国の野球の実力を自覚し、野球を国技として重視するようになった。しかし、外国チームとの対戦によって中華民国を世界に誇示することを意図したものであった¹²。1980年代に、台湾では多くの優秀な社会人・成人選手が産出されたが、当時プロ野球がまだ結成されず、それらの選手は日本プロ野球へのプロ入りにした。また、同時期の台湾代表チームは1983年アジア選手権（優勝）、1984年ロサンゼルスオリンピック（銅メダル）、1987年アジア選手権（優勝）などで好成績を挙げ、野球強国にふさわしい実力を見せた¹³。1989年、国内の実業団チームの働きかけにより、台湾プロ野球CPBLが結成された。プロ野球の開幕後、台湾の代表チームの国際大会への参加が常態化し、国内においてもアマチュアの規模が次第に増加してきた¹⁴。

第2節 日・韓・台におけるアマ・プロ野球の全体像

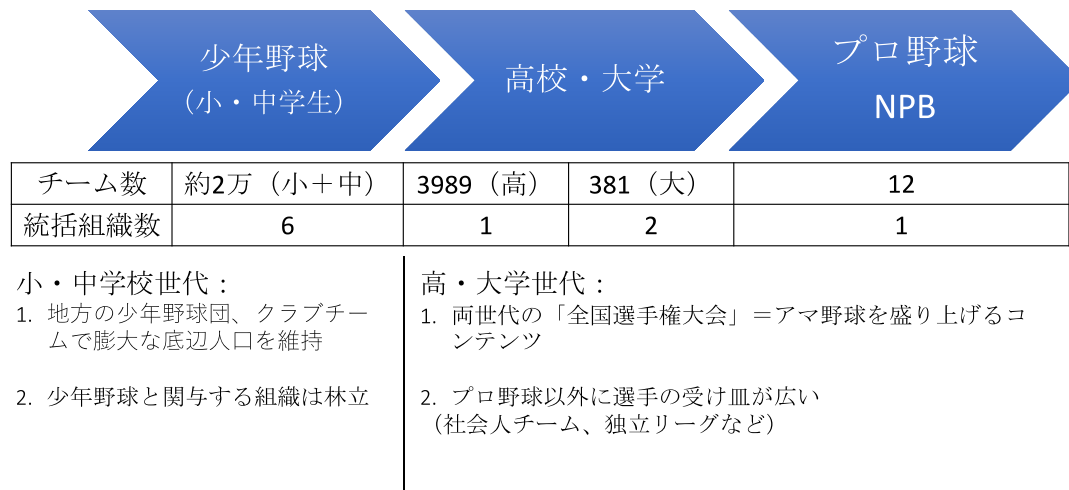
第1項 日本におけるアマ・プロ野球界の構造

図3-2-1 日本におけるアマ・プロ野球界の構造

¹²出典：台湾棒球維基館、「三級棒運時期的台灣棒球（1960年代～1980年代）」
<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E4%B8%89%E7%B4%9A%E6%A3%92%E9%81%8B%E6%99%82%E6%9C%9F%E7%9A%84%E5%8F%B0%E7%81%A3%E6%A3%92%E7%90%83%E5%8F%BC%881960%E5%B9%B4%E4%BB%A3~1980%E5%B9%B4%E4%BB%A3%E5%8F%BC%89>（最終検索日：2018年12月18日）

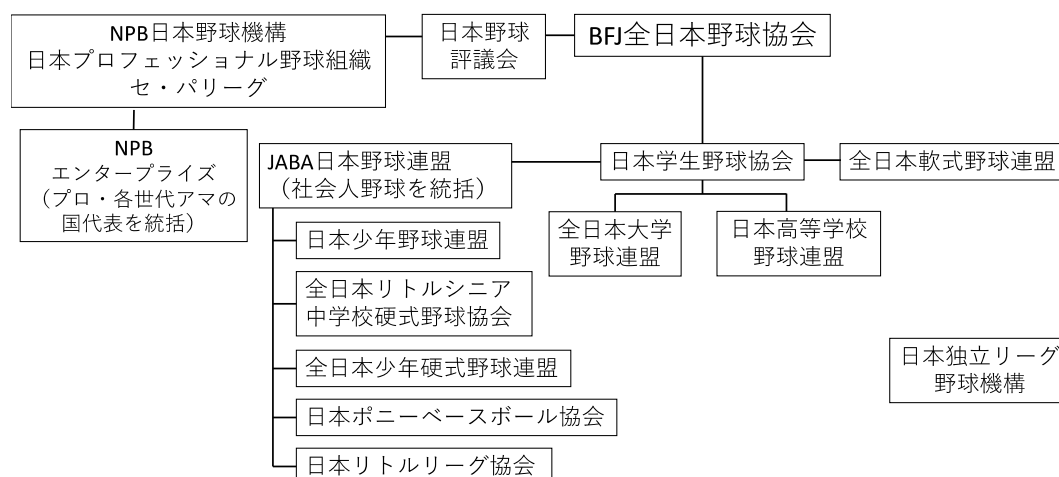
¹³出典：台湾棒球維基館、「成棒時期的台灣棒球（1980年代～1990年代）」
<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E6%88%90%E6%A3%92%E6%99%82%E6%9C%9F%E7%9A%84%E5%8F%B0%E7%81%A3%E6%A3%92%E7%90%83%E5%8F%BC%881980%E5%B9%B4%E4%BB%A3~1990%E5%B9%B4%E4%BB%A3%E5%8F%BC%89>（最終検索日：2018年12月18日）

¹⁴出典：中華職棒大聯盟全球資訊網 The Official Site of CPBL、「關於中職」
<http://www.cpbl.com.tw/footer/about/>（最終検索日：2018年12月18日）



出典：全日本軟式野球連盟、日本中学校体育連盟、日本高等学校野球連盟、
 全日本大学野球連盟、全日本野球協会等のホームページより筆者作成

図3-2-2 日本野球界の構図



出典：全日本野球協会ホームページより筆者作成

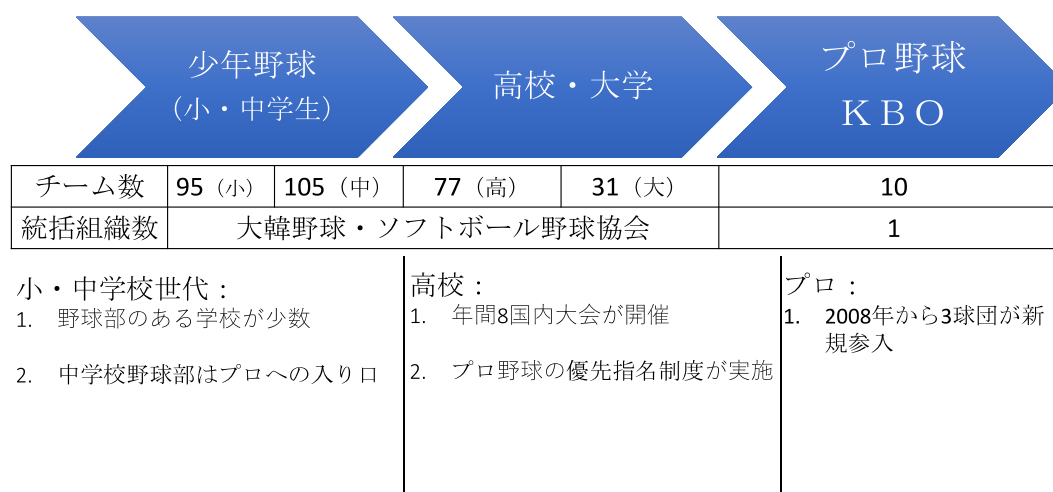
日本のアマチュア野球における選手育成システムは、典型的なピラミッド型である。全国という視点から見ると、今小・中学校世代を含む少年野球のチーム数は最も膨大である。それは小中学校での部活動だけではなく、地方において少年野球団及びクラブチームも設置されているからだ。また、日本の少年野球には、硬式野球、軟式野球という二つの項目があるため、小・中学校世代の野球を統括する全国レベルの統括組織は6つも運営されている。

高校世代と大学世代は今日日本のアマチュア野球の中心である。両世代の「全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）」と「全日本大学野球選手権大会」の開催はそれぞれ104年¹⁵、67年¹⁶の歴史があり、両大会は日本のアマチュア野球を盛り上げるコンテンツとなった。また、毎年プロ野球の新人ドラフト会議の際に、高校・大学卒業生は新人指名の大熱門であり、即戦力としてプロ野球チームからの注目も高い¹⁷。

学生野球だけではなく、日本において、社会人野球も発達している。「都市対抗野球大会」や「社会人野球日本選手権大会」などの企業トップレベルチームが優勝を競争する全国大会が開催され、プロ野球と比べ遜色のないプレーレベルである¹⁸。また、全国において、各世代のアマチュア野球とプロ野球と関わらず、独立運営している独立リーグは3つ設置されている¹⁹。

第2項 韓国におけるアマ・プロ野球界の構造

図3-2-3 韓国におけるアマ・プロ野球界の構造



¹⁵出典：公益財団法人日本高等学校野球連盟、「大会小史」

<http://www.jhbf.or.jp/sensyuken/history/#01>（最終検索日：2018年12月19日）

¹⁶出典：公益財団法人全日本大学野球連盟、「大会記録」

https://www.jubf.net/records/championship_champion.html（最終検索日：2018年12月19日）

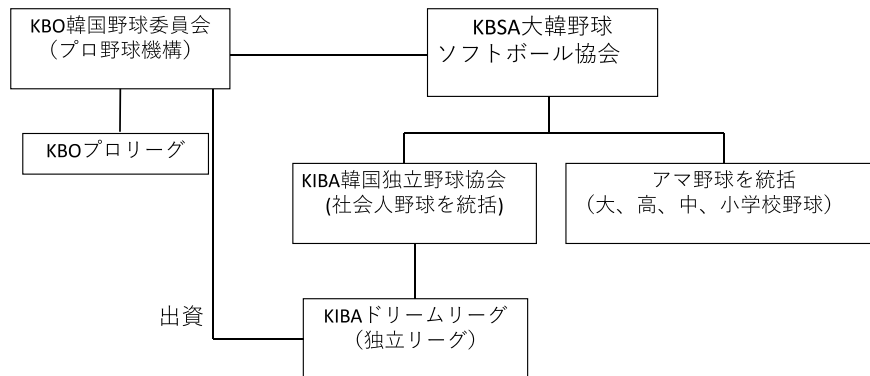
¹⁷出典：full-count、「2005年～2016年の各球団ドラフト指名選手一覧」<https://full-count.jp/2015/10/22/post20735/>（最終検索日：2018年12月19日）

¹⁸出典：公益財団法人日本野球連盟ホームページ、<http://www.jaba.or.jp/>（最終検索日：2018年12月19日）

¹⁹出典：一般社団法人日本独立リーグ野球機構ホームページ、<http://www.ipbl-japan.com/>（最終検索日：2018年12月19日）

出典：大韓野球ソフトボール協会ホームページ、台灣棒球維基館、KBOホームページより筆者作成

図3-2-4 韓国野球界の構図



出典：大韓野球ソフトボール協会ホームページ、KBOホームページ、自由時報より筆者作成

韓国のアマチュア野球における選手育成システムの特徴は少数精鋭である。5100万強の人口²⁰を有する韓国では、野球部のある学校が極めて少数である²¹。その中に、高校野球において、1年間に8全国大会²²も開催され、プロ野球新人指名の際にもプロ野球チームとの優先指名制度が付いている。このような全国大会数及びプロ野球との緊密な制度は他の世代と比べ随一である。なぜなら、大学世代に行くと、高校野球のように多くの全国大会が開催されなく、チーム数も高校野球との比類にならない現状だから。このように、韓国の高校野球がアマチュア野球の中心となっている。

全体的な構図として、小・中・高・大学世代の運営は主に大韓野球・ソフトボール野球協会（KBSA）によって一括して運営され、プロ野球は韓国野球委員会（KBO）によって運営されている。だが、近年KBOによるアマチュア野

²⁰出典：THE WORLD BANK、「Population, total」

<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL?locations=KR>（最終検索日：2018年12月19日）

²¹出典：NEWS PICKS、「【新】メジャーリーガーを生み出した韓国野球超エリート主義」

<https://newspicks.com/news/1545185/body/>（最終検索日：2018年11月6日）

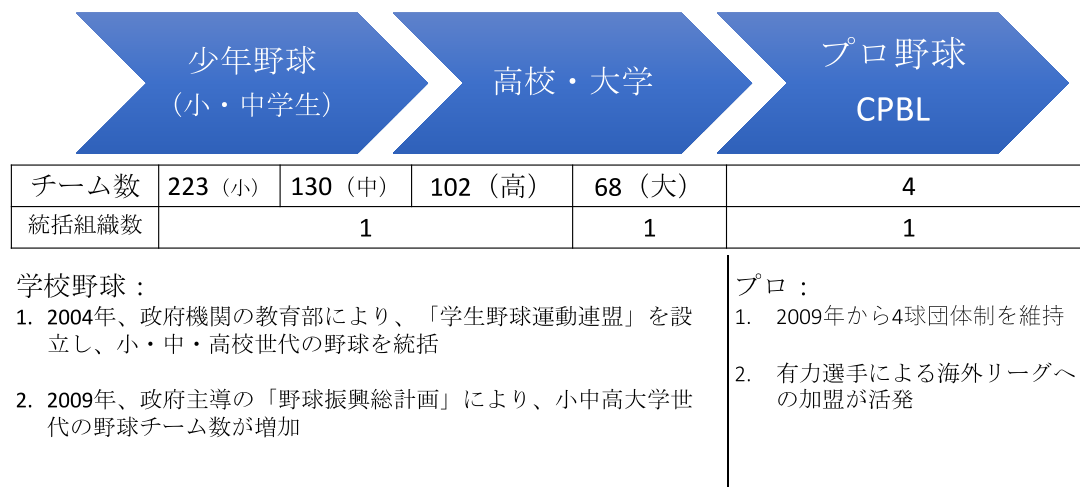
²²出典：台灣棒球維基館、「青龍旗全國高校野球選手権大會」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E9%9D%91%E9%BE%8D%E6%97%97%E5%85%A8%E5%9C%8B%E9%AB%98%E6%A0%A1%E9%87%8E%E7%90%83%E9%81%B8%E6%89%8B%E6%AC%8A%E5%A4%A7%E6%9C%83>（最終検索日：2018年12月18日）

球への支援も幅広く展開していた。2012年KB0は「Baseball Tomorrow Fund」というプロジェクトを公表し、2013年から2018年にかけて、新設した小・中・高の学校チームへ金銭的な補助をすることを主な方針とした²³。また、KB0も韓国独立リーグ（KDI）に出資し、同リーグは2017年に発足した²⁴。

第3項 台湾におけるアマ・プロ野球界の構造

図3-2-5 台湾におけるアマ・プロ野球界の構造

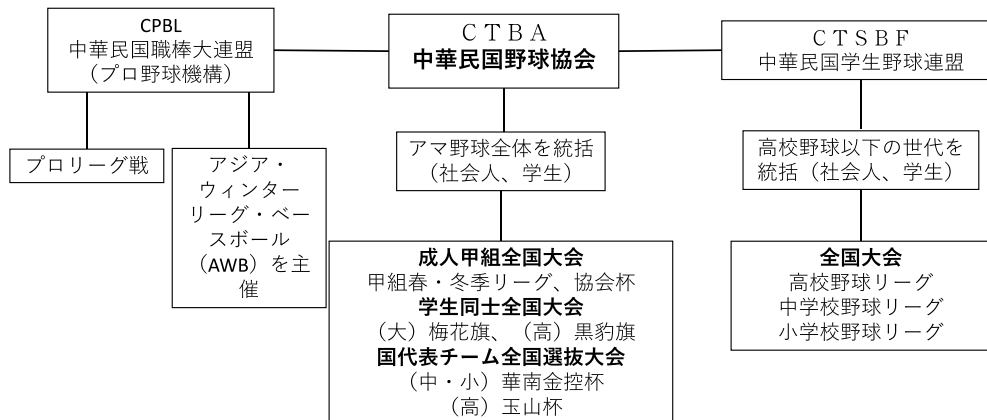


出典：教育部體育署のデータ、中華民國學生棒球運動聯盟ホームページ、中華職棒大聯盟ホームページより筆者作成

図3-2-6 台湾野球界の構図

²³出典：痞客邦運動邦、「韓國職棒基層回饋新制 吸引三級棒球成立球隊」
<http://channel.pixnet.net/sport/article/baseball/ottocat/28306403>（最終検索日：2018年10月27日）

²⁴出典：自由時報、「韓職出資成立 韓國獨立聯盟 4月底開打」
<http://sports.ltn.com.tw/news/breakingnews/2028844>（最終検索日：2018年10月27日）



出典：中華民國學生棒球運動聯盟ホームページ、中華民國棒球協會ホームページ、中華職棒大聯盟ホームページより筆者作成

各世代のチーム数から見ると、台湾のアマチュア野球システムは日本と近く、ピラミッド型である。2004年、台湾の政府機関である教育部体育署は、小・中・高校の野球関連業務を運営・統括する学生野球運動聯盟（CTSBF）を設立し、現在では毎年、小・中・高校世代の全国リーグ戦を主催している²⁵。大学と社会人世代の試合の主催はアマチュア野球全体を統括する中華民國野球協會（CTBA）に委ねられている²⁶。近年、野球協會とプロ野球 CPBL の間に、プロ選手で構成された台湾代表チームの編成事務における役割分担の不明によって論争が生じ、両組織における協力がさらに薄まってきた²⁷。

2009年前後、プロ野球リーグCPBLにおける八百長事件が発覚され、当時台湾のスポーツ界を騒動させる大事件となり、プロリーグの人气が底に落ちていた。台湾政府はプロ野球の八百長を足止めると同時に、台湾のアマチュア野球を整頓すべく、初めて野球界全体に対して「野球振興総計画」を掲げた。当計画はアマチュア野球チーム数の増加を促すために、学生野球チームへの補助金を搬出した。成人野球において、各地方都市における成人甲組都

²⁵出典：中華民國學生棒球運動聯盟、「學生棒球運動聯盟簡介」

<http://www.ctsbf.edu.tw/index-about.html?type=3>（最終検索日：2018年10月12日）

²⁶出典：中華民國棒球協會ホームページ、<http://www.ctsbf.edu.tw/index-about.html?type=3>（最終検索日：2018年10月12日）

²⁷出典：YAHOO!、「宿怨拖垮國球 中職棒協恩怨情仇史」

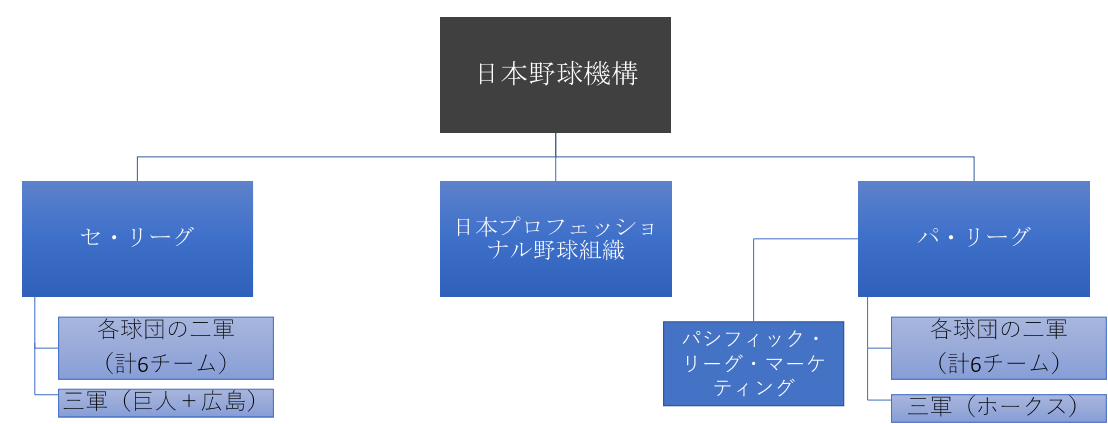
<https://tw.youcard.yahoo.com/cardstack/e21d0570-0ac4-11e7-8a86-f77e87455223>（最終検索日：2018年10月20日）

市野球団の成立へも金銭的な援助をした。この総計画を通して、2009年以降台湾のアマチュア野球チーム数は着実に増えてきた（楊、2016）

第3節 日・韓・台におけるプロ野球リーグについての比較

第1項 日本プロ野球リーグの構造

図3-3-1 日本プロ野球NPBにおけるリーグ構成



出典：大久保健男「スポーツジャーナリズム基金公開フォーラム講演」
(2011) より筆者作成

図3-3-2 日本プロ野球NPBにおけるリーグの試合情報(2018)

チーム数	1球団試合数	平均観客動員数	公式戦期間
12	143	29779	3月下旬～11月上旬

出典：日本野球機構ホームページより筆者作成

日本プロ野球リーグの総機構は日本野球機構（NPB）であり、その機構の下にセ・パ両リーグと日本プロフェッショナル野球組織が設置されている。日本プロフェッショナル野球組織には12球団オーナー会議と実行委員会が付いている。12球団オーナー会議はプロ野球における最高な意思決定機関で、議案の決定には出席全員の4分の3以上の同意が必要とされる（武田、2007）。

リーグ戦は2リーグ12チームによって組まれている。いずれのチームには2軍が付き、3軍を有するチームもある。ビジネス面では、基本的な権利義務（チケット収入、放映権料の管理など）はホームゲームを行う各球団に帰属し、各球団がビジネス活動を行う。リーグによる事業はオールスター戦、日本シリーズの主催事業と侍ジャパン事業である（大久保、2011）。2007年、

パ・リーグにおける6チームが共同出資し、「パシフィックリーグマーケティング」という、パ・リーグの6チームによるインターネット上の映像事業と集客力向上のための連携事業を推進する共同会社が設立された（平田、2017）。

第2項 韓国プロ野球リーグの構造

図3-3-3 韓国プロ野球KBOにおけるリーグ構成



出典：KBOホームページ、台湾棒球維基館より筆者作成

図3-3-4 韓国プロ野球KBOにおけるリーグの試合情報(2018)

球団数	1球団試合数	平均観客動員数	公式戦期間
10	144	11214	3月下旬～11月上旬

出典：KBOホームページより筆者作成

韓国プロリーグでは韓国野球委員会（KBO）が総機構を担当し、1リーグ10球団によってリーグ戦を組んでいる。10球団が管理する2軍チームはKBOの2軍リーグであるフューチャーズリーグを構成している。2軍リーグでは、KBO10チームの2軍チームに加えて、独立チームであるサンム及び警察野球チームの2チームも参加し、12チームの体制である²⁸。サンムとは韓国軍隊の体育部隊で、両独立チームはいずれも軍兵役専門チームである。また、プロチームには残留軍も設置され、一軍と二軍に登録されない選手が所属する²⁹。

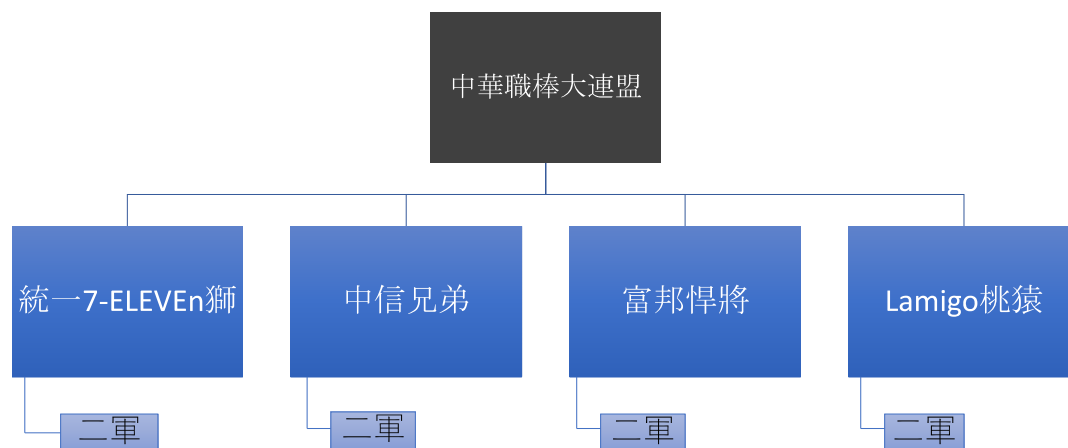
²⁸出典：Korea Baseball Organization ホームページ、
<https://www.koreabaseball.com/Default.aspx>（最終検索日：2018年12月3日）

²⁹出典：台湾棒球維基館、「韓国職棒二軍」

ビジネスの面では、KBO リーグ支配下に、KBO PROPERTIES (KBOP) という組織が運営されている。KBOP は主にリーグのタイトルスポンサービジネス、KBO と関連するグッズのライセンスビジネス、リーグ戦放映権ビジネスを推進する組織である。その中の放映権ビジネスからの収益をさらに各チームに分配する仕組みとなっている（延、2013）。

第3項 台湾プロ野球リーグの構造

図3-3-5 台湾プロ野球CPBLにおけるリーグ構成



出典：中華職業棒球大聯盟ホームページより筆者作成

図3-3-6 台湾プロ野球CPBLにおけるリーグの試合情報(2018)

球団数	1球団試合数	平均観客動員数	公式戦期間
4	120	5457	3月下旬～11月上旬

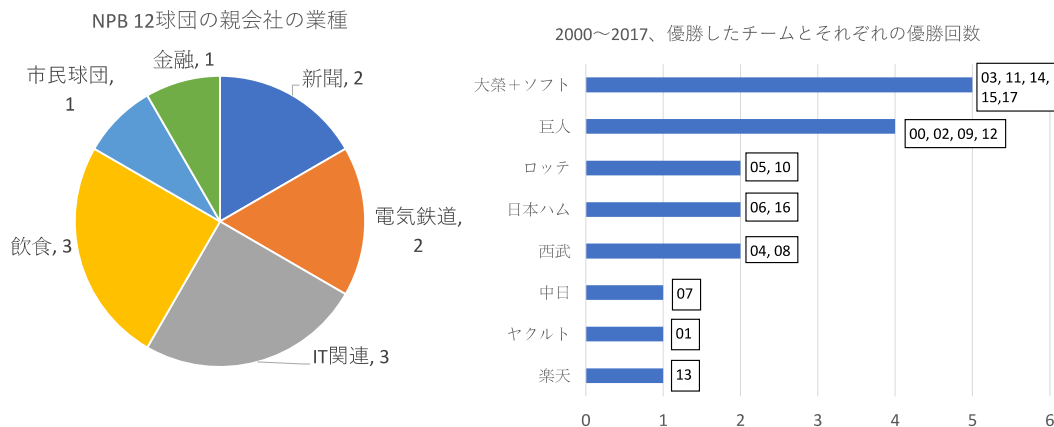
出典：中華職業棒球大聯盟ホームページより筆者作成

「中華職業棒球大聯盟（CPBL）」は台湾プロ野球リーグの総機構である。今は1リーグ4チームでプロリーグ戦を行っている。リーグによる主な事業は

ポストシーズン³⁰とオールスター戦³¹の主催、プロ国代表チームの編成³²である。ビジネスの面では基本的な権利義務（チケット収入³³、放映権の管理³⁴など）は各球団に属している。

第4項 日本プロ野球チームのバックグラウンド

図3-3-7 NPBチームのバックグラウンド



出典：日本野球機構ホームページより筆者作成

NPB12チームにおいて、広島東洋カープを除き、皆親会社がつく企業チームである。昔大手新聞社と電気鉄道会社がプロチームを持つのはよく見られたが、近年IT関連の大手会社がプロ野球に新規参入するのも目立っている（平田、2017）。

³⁰出典：台湾棒球維基館、「中華職棒大聯盟季後賽」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E4%B8%AD%E8%8F%AF%E8%81%B7%E6%A3%92%E5%A4%A7%E8%81%AF%E7%9B%9F%E5%AD%A3%E5%BE%8C%E8%B3%BD>（最終検索日：2018年11月30日）

³¹出典：台湾棒球維基館、「2018年中華職棒紅白明星對抗賽」

<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/2018%E5%B9%B4%E4%B8%AD%E8%8F%AF%E8%81%B7%E6%A3%92%E7%B4%85%E7%99%BD%E6%98%8E%E6%98%9F%E5%B0%8D%E6%8A%97%E8%B3%BD>（最終検索日：2018年11月30日）

³²出典：YAHOO!、「宿怨拖垮國球 中職棒協恩怨情仇史」

<https://tw.youcard.yahoo.com/cardstack/e21d0570-0ac4-11e7-8a86-f77e87455223>（最終検索日：2018年10月20日）

³³出典：中時電子報、「新聞透視-全主場制 票房紅不讓」

<https://www.chinatimes.com/newspapers/20180324001283-260111>（最終検索日：2018年11月28日）

³⁴出典：ETtoday 運動雲、「中職4球團電視轉播都不同 職棒轉播各家爭鳴」（最終検索日：2018年11月20日）

表3-3-8 NPBにおけるチームの変遷

パ・リーグ	1980～90	90～2000	00～10	10～現在	
西武ライオンズ			改名(07)		埼玉西武ライオンズ
阪急ブルーブス	改名(89)	改名(91)	合併(04)		オリックスバファローズ
南海ホークス	改名(89)		親替(04)		福岡ソフトバンクホークス
日本ハム・ファイターズ			改名(04)		北海道日本ハムファイターズ
ロッテ・マリーンズ		改名(91)			千葉ロッテ・マリーンズ
東北楽天ゴールデンイーグルス		新規参入(04)			同名

セ・リーグ	1980～90	90～2000	00～10	10～現在	
読売ジャイアンツ					読売ジャイアンツ
阪神タイガース					阪神タイガース
中日ドラゴンズ					中日ドラゴンズ
横浜ベイスターズ		改名(92)		親替(11)	横浜DeNAベイスターズ
広島東洋カープ					広島東洋カープ
ヤクルトスワローズ			改名(05)		東京ヤクルトスワローズ

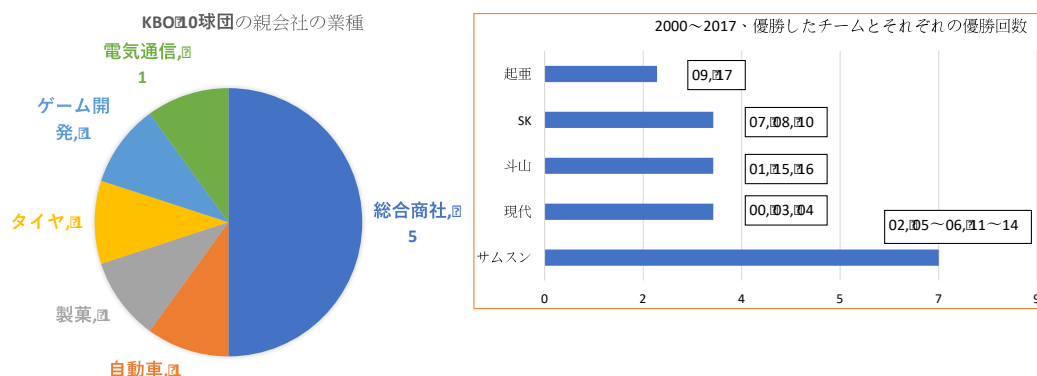
出典：プロ野球データ管理室より筆者作成

(改名＝チーム名の変更、親替＝親会社の変更)

NPB12チームの変遷において、2004年大阪近鉄バファローズとオリックス・ブルーウェーブの合併（後のオリックス・バファローズ）、南海ホークスの親会社の変更（後の福岡ソフトバンクホークス）と、東北楽天ゴールデンイーグルスの新規参入などの一連のチーム再編事件が起きて以来、NPBにおけるプロチームには大きな変動が見られない。

第5項 韓国プロ野球チームのバックグラウンド

図3-3-9 KB0チームのバックグラウンド



出典：KBO ホームページより筆者作成

KBO リーグの発足時、財務状況が長期的に良好な企業ではなければ、チームの経営権を獲得できないという親会社への参入条件があった（延、2013）。そこで、KBO10 チームにおいて、各業種の財閥系大企業が出資し、チームを経営するのは従来のパターンで、その構図は現在にも続いている。つまり、KBO では特定業種の企業ではなく、様々な領域（重工業、電子製品、食品系など）におけるグループ会社がプロ野球チームを有している。また、その中に、ネクセン・ヒーローズのような KBO 史上初ネーミングライツスポンサーのみで、親会社を持たないチームも健在している³⁵。

表3-3-10 KBOにおけるチームの変遷

³⁵出典：韓国プロ野球応援サイトストライク・ゾーン、「ネクセン ヒーローズ紹介」
<https://strike-zone.jp/frame-wh.html>（最終検索日：2018年12月1日）

	1982～90	90～2000	00～10	10～現在	現在チーム名
OBベアーズ		親替(98)			斗山ベアーズ
MBC青龍	売却(89)				LGツインズ
ヘテタイガース			売却(01)		KIAタイガース
サムスンライオンズ					同名
三美スーパースターズ	売却(85、87)	売却(95)	(08)		
ロッテジャイアンツ					同名
ビングレイイーグルス	二軍(85)	改名(94)			ハンファEagles
サンバンウルレイダース		二軍(90)	(99)		
SKワイパーズ					同名
ウリヒーローズ			二度改名(08)	スポン替(10)	ネクセンHeros
NCダイノス				二軍(12)	同名
KTウィズ				二軍(14)	同名

出典：韓国プロ野球応援サイトストライク・ゾーンより筆者作成

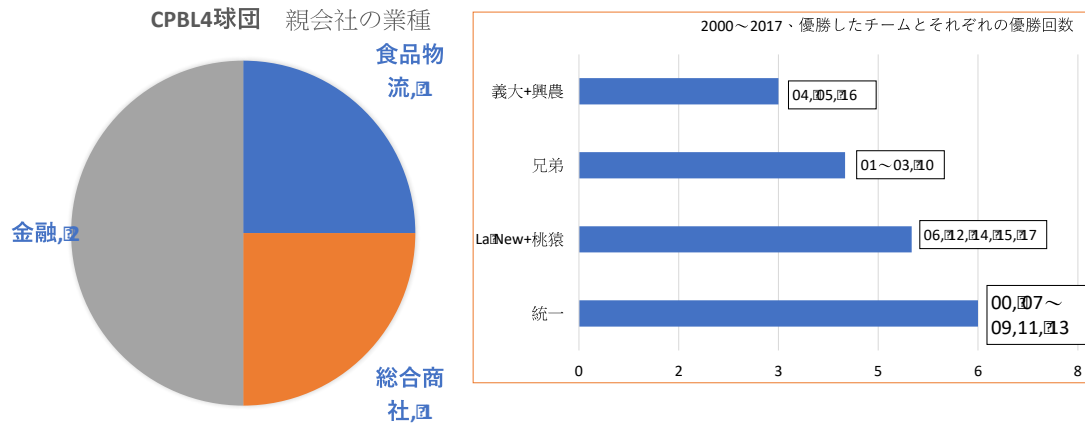
(改名＝チーム名の変更、売却＝チームを他社に売却、親替＝親会社の変更、スポン替＝タイトルスポンサーの変更、二軍＝新規参入の初年度が二軍戦)

KB0の発足時、6チームがリーグに参入した。しかし、三美スーパースターズの親会社である三美グループはチームを経営する意欲がなく、1985年に青宝グループにチームを売却した。同年、ビングレイ・イーグルスは新規参入。2年後、青宝グループは倒産し、化粧品メーカーの太平洋グループがチームを買収した。1995年、太平洋グループは現代グループにチームを売却し、同チームの三度目であった。1999年、サンバンウル・レイターズは経営難でチームが解散し、所属選手たちの保有権は翌年に新規参入したSKワイパーズに譲られ、多くの選手はSKに移籍した。2006年から経営不振になった現代グループはチームを売却する意思があり、様々な企業へチーム買収について打診したが、結局買収案は実現されなかった。その2年後、現代ユニコーンズは直接解散し、大半の選手は同年に新規参入したウリヒーローズの所属となった。2012年シーズン後、上昇してきたKB0リーグの入場者数に対して、リーグ側は10チーム体制に拡張する意欲を示した。その経緯で、2012年と2014年にNCダイノスとKTウィズは新規参入を果たした³⁶。

³⁶出典：韓国プロ野球応援サイトストライク・ゾーン、「韓国プロ野球の基本情報」
<https://strike-zone.jp/frame-kbb.html>（最終検索日：2018年12月1日）

第6項 台湾プロ野球チームのバックグラウンド

図3-3-11 CPBLチームのバックグラウンド



出典：台湾棒球維基館より筆者作成

CPBLの4チームには親会社がつき、企業チームである。リーグ発足した最初の頃から食品系（統一、味全）老舗企業がプロチームを持つのは普通のパターンだったが、リーグ発足した頃から近年にかけて、「和信グループ」（チーム：和信鯨）、「第一金控」（チーム：第一金剛）、「誠泰商業銀行」（チーム：誠泰太陽）、「中国信託金控」（チーム：中信兄弟）と「富邦金控」（チーム：富邦勇士）のような金融系企業がプロ野球に参入するケースが多かった。

表3-3-12 CPBLにおけるチームの変遷

	1990～95	1996～00	2001～05	2006～10	11～現在	現在チーム名・解散原因
統一 獅				改名(08)		統一7-ELEVEn獅
兄弟 象					売却(13)	中信兄弟
三商 虎			(99)			チーム経営不振
味全 龍			(99)			親会社経営不振
時報 鷹	(93)		(98)			八百長事件の影響
俊国 熊	(93)	売却, 改名(96)			売却(12, 16)	富邦勇士
和信 鯨		(97)	改名(02)	(08)		八百長事件の影響
誠泰太陽			合併(03)	改名(04)	売却(08)	八百長事件の影響
第一金剛			合併(03)	売却(03)	改名(11)	Lamigo桃猿

出典：台灣棒球維基館より筆者作成

(改名＝チーム名の変更、売却＝チームを他社に売却、合併＝TMLリーグからのチームがCPBLに合併)

今CPBLは4チーム体制であるが、リーグが発足した最初の頃は6チームであった。リーグ開幕した1990年から1996年にかけて、CPBLは台湾史上初のプロスポーツリーグとして、ファンからの人気を順調に集め、6チーム体制を維持していた。しかし、1996年に発生した選手による第一次八百長事件は直接リーグの人気を低落させ、当事件に関わった選手が多く在籍している球団（時報鷹）と、その事件に伴うチームの経営不振に落ちたチーム（三商虎、味全龍）は次々と解散された。

2003年、台湾におけるもう一つのプロ野球リーグである「台湾職業棒球大聯盟（1997～2003）」は潰され、聯盟の4チームは2チームに合併され、CPBLへ参入した。CPBLは再び6チームに戻ったが、2008年と2009年にリーグ内の八百長事件が再度勃発。事件の影響で中信鯨（元和信鯨）と米迪亞暴龍（元誠泰太陽）は解散に至った。

第7項 日・韓・台におけるプロ野球の選手獲得の実態

表3-3-13 日・韓・台プロ野球における選手ドラフトの規定

プロリーグ	NPB 新人ドラフト	KBO			CPBL 新人ドラフト
		一次指名	二次指名	KBO ルール5ドラフト	
各球団の指名方式	1. 第1巡目は抽選制 2. 第2巡目と複数巡目はウェーバー方式 3. 第3巡目と奇数巡目は逆ウェーバー方式	各球団は本拠地出身の選手を一人のみ指名	1. 前年度成績により決定 2. 各巡目は最下位から指名を	1. 前年度成績により決定 2. 各巡目は最下位から指名を	1. 前年度成績により決定 2. 各巡目は最下位から指名を
毎年の開催時期	10月	6か7月	8月後半	2年ごとの11月	6か7月
対象	所属の野球連盟・協会にプロ志望届を提出したアマ選手及び卒業年度の高・大学生	卒業年度の高校生と大学生	1. 一次指名に乘らなかった者 2. 元海外リーグ経験者	1. ドラフト前に40人リストを作成 2. リスト外れの選手は対象	1. 18歳以上 2. アマ甲級現役OR経験者 3. プロ球団から推薦された者
特記事項			二次指名にされなかった者は育成契約を結べる	移籍先球団は選手の元の球団に移籍金を支払う	会議前に新人トライアウトがある

出典：台湾棒球維基館、スポーツナビ+より筆者作成

日・韓・台のプロ野球チームにおける選手獲得の手段は新人ドラフトである。NPB と CPBL の新人ドラフトの規定は大きく変わらないが、KBO の新人ドラフトに 1 次指名と 2 次指名、計 2 回のドラフトが毎年実施される。

一次指名とはいわゆる「高・大卒優先指名制度」である。この制度において、各チームは自分の本拠地出身の卒業年度の高校生または本拠地の高校を卒業した卒業年度の大学生を一人ずつ指名できる。2 次指名は NPB と CPBL の新人ドラフトに類似する制度である。2 次指名の対象は 1 次指名に選ばれなかった人、プロ野球選手として最初に所属したチームが海外であった選手（元海外組）、卒業年度の高校生と大学生などとする³⁷。

また、KBO において、MLB のルール 5 ドラフトと類似する「KBO ルール 5 ドラフト」が実施される。新人ドラフトと違い、各チームはドラフト開始前に、各自 40 人の保護リストを作成し、リストから外れた選手はこのルール 5 ドラフトの対象となる。つまり、各チームがリーグ内の現存するプロ野球選手を選び合う制度である³⁸。

表 3-3-14 日・韓・台プロ野球における育成選手の規定

	CPBL	KBO	NPB
	自主培訓選手	申告選手	育成選手
選手獲得の手段	チームとの交渉	チームとの交渉	育成ドラフト
出場可能な試合	2 軍戦のみ		
最低年俸	なし	なし	240 万円
選手の目標	チーム支配下登録選手になり、1 軍戦へ出場すること		

出典：台湾棒球維基館、ETtoday運動雲、スポーツナビ+より筆者作成
新人ドラフトに指名されなかった人に対して、日・韓・台のプロ野球チー

³⁷出典：スポーツナビ+、「韓国プロ野球の新人ドラフト指名方式（2016 年 ver.）」
<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/datekorea/article/129>（最終検索日：2018 年 1 月 30 日）

³⁸出典：スポーツナビ+、「韓国版ルール 5 ドラフト「2 次ドラフト」とは？」
http://sp.plus-blog.sportsnavi.com/datekorea/article/140?article_page=1（最終検索日：2018 年 1 月 30 日）

ムはそのような選手を吸収する手段を備えている。NPB では「育成ドラフト /2 次ドラフト」と呼ばれ、新人選手を育成選手として上限なく指名する制度である。育成選手はチームの支配下登録選手（最大 70 人）になることを目指し、2 軍戦にのみ出場できる。育成選手の年俸は最低 240 万円と規定される³⁹。KBO チームには日本の育成選手と似ている「申告選手」が設置されている。申告選手も球団の支配下登録選手（最大 63 人）への昇格を目標とし、2 軍に出場する。しかし、最低年俸という規定がなく、契約の際にも契約金を支給されないのも普通である⁴⁰。CPBL には「自主培訓選手」のような育成選手に近い制度がある。新人ドラフトに指名されなかった選手に対して、各チームはそれらの選手と交渉し、自主培訓選手として入隊させることができる。同じく 2 軍のみに出場。しかし、当制度で入隊した選手は正式的な選手契約が結ばれない⁴¹。

表 3-3-15 近年日・韓・台プロ野球における新人ドラフト概況

NPB					KBO（二次指名）					
	高校生	大学生	社会人	独り		高校生	大学生	元海外組	社会人	その他
2016	37	32	17	1	2017	81	17	0	0	1
2017	31	22	23	6	2018	74	20	3	2	1
2018	41	36	17	1						

CPBL					
	高校生	大学生	社会人/ 成人チーム	元海外組	軍隊チーム
2016	7	15	8	0	6
2017	6	14	8	3	2
2018	15	10	5	2	0

³⁹出典：いろんなニュース・話題・情報を根掘り葉掘り、「ドラフトの育成枠の意味は？契約金はあるの！？」<http://nehohaho.com/1639.html>（最終検索日：2018 年 11 月 30 日）

⁴⁰出典：台湾棒球維基館、「申告選手」
<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php/%E7%94%B3%E5%91%8A%E9%81%B8%E6%89%8B>
（最終検索日：2018 年 12 月 2 日）

⁴¹出典：SETN 三立新聞網、「限縮培訓制度 中職 2019 年進入 60 人年代」
<https://www.setn.com/News.aspx?NewsID=335798>（最終検索日：2018 年 12 月 2 日）

出典：台湾棒球維基館、よろず堂通信、韓国職棒台湾粉絲團より筆者作成
 図表が示す通り、日・韓・台のプロ野球新人ドラフトに指名された選手の中で、高校生・大学生選手の指名数が主となる。特に KBO において新人指名された高校生の数は常に新人選手を全員の 70%以上占めている。一方、KBO と違い、NPB と CPBL において、高校・大学生出身以外に、社会人、元海外組、独立リーグ出身の選手も毎年新人指名されている。

第 4 節 日・韓・台におけるプレー環境の差

表 3-4-1 日・韓・台プロ野球リーグの選手給与

プロ野球	球団数	選手平均月給		日・韓・台主要都市における月額賃金(2018年)
		2017年	2018年	
NPB (日)	12	326.2万円	約329.5万円	約29万3千円
KBO (韓)	10	117.2万円	約124.4万円	約20万6千円
CPBL (台)	4	56.6万円	約55.5万円	約12万2千円

出典：聯合新聞網、毎日新聞、三菱 UFJ 銀行より筆者作成
 図表が示す通り、近年日・韓・台における選手の平均月給は大きく変動していないが、この三ヶ国のプロ野球の選手給与の差はかなり大きいのである。さらに、NPB と KBO と違い、CPBL の選手給与は最も伸び悩んでいる。

表 3-4-2 日・韓・台における初めてのプロ入りが外国リーグである選手数 (1999～2018)

	選手数
日本	10
韓国	15
台湾	118

出典：台湾棒球維基館より筆者作成

なお、台湾では、初めてのプロ入りが自国のCPBLではなく、外国リーグにしたアマチュア選手数も極めて多い。表3-3-2が示す通りに、毎年台湾において、約6名のアマチュア選手は外国リーグにて、プロ入りをすることがわかった。

第4章 考察

第1節 日・韓・台はMLBの影響を受けなかった原因

結果の第1節の通り、戦前の日本政府・現地在住日本人の働きかけを元に、野球の競技発展が日本と一丸になった韓・台は戦後、日本の支配体制から離脱した。そして、戦前にすでにプロ野球ができた日本と違い、戦後から近代にかけて、韓国は国内の高校野球選手権の開催、台湾は国内の国営・民営企業によって実業団チームを結成し、自発的な試合の開催を始め、高校・社会人世代を中心にアマ野球の基礎を充実してから、独自プロ野球が発足するようになったことがわかった。この歴史的な経緯から見れば、戦前の日本人による野球の普及で確立された国内の取り組みは、戦後の国内政治・経済状況が不穏だった韓・台を国内の野球を発展させる体制に早くも回復させたキーだと捉える。その一方、(李、2014)がまとめた通り、1950年代から1980年代にかけて、MLBの資本拡張によるその周辺である中南米各プロリーグへの進出・統合が進んでいた。そこで、本来MLBと地理的に遠い日・韓・台はMLBが中南米への進出に集中している間に、戦前に確立されたアマ野球の礎を元に、戦後から近年にかけて、MLBからの影響を受けずにアマ・プロ野球を発展させることができたと考えられる。

第2節 日・韓・台のアマ・プロ野球における共通・相違点

第1項 日・韓・台の野球界全体における共通・相違点

表 4-2-1 日・韓・台の野球界全体における共通・相違点

	日本	韓国	台湾
同	小・中・高・大学世代の野球及びプロ野球が運営中		
異	多数な統括組織	プロ野球KB0は主導役	政府機関も国内野球への支援を

現在、小・中・高・大学世代の野球及びプロ野球が国内の野球界を構成しているのは日・韓・台の共通点である。一方、筆者は以下のように日・韓・台における異なる所を観察してきた。

日本における小・中学校世代では学校チームだけではなく、地域のクラブチームも全国各地で活動しており、底辺の少年野球から大学世代にかけての野球チーム数は膨大な基盤を維持している。成人野球において、企業の社会人チームと地方の独立リーグもあり、プロ野球以外の選手の受け皿が韓・台よりも広い。一方、日本では膨大なアマチュア野球の規模に対して、アマ野球界を垂直にまとめる組織（例えば、全日本野球協会）よりも一つの世代を統括する組織は先に創設された。各組織は一つの世代への管理に集中する代わりに、他の世代を統括する組織との協力が薄まる懸念がある。

プロ野球KB0の発足により、韓国のアマチュア野球の規模は衰退した。その背景で、現在韓国のアマチュア野球は、プロ球団との優先指名制度が実施されるほか、年間8国内大会が主催される高校野球に一点集中する傾向が強い。一方、近年国内において人気を博してきたKB0は新設した小・中・高の学校チームへの金銭的補助（2013～2018）、国内独立リーグへの出資（2017）などで、アマチュア野球への支援を展開している。KB0の主導によって、今後韓国アマチュア野球の規模が広がることが考えられる。また、KB0はいずれのアマ野球に対する振興策の中に牽引役を担当した。むしろアマチュアを統括する

KBSAよりも有力な振興策を計画・実行できる。そこで、現在ではプロ野球KBOが韓国の野球界をリードしていると言える。

台湾は韓国と同じ、アマチュア層の学生チームが学校単位のチームであり、アマチュア野球における学生野球と成人野球の関連業務の実行はそれぞれ学生野球運動連盟と野球協会に委ねられる。一方、2008年と2009年に、プロ野球CPBLでは八百長事件が発生したのに対して、台湾政府はアマ・プロ野球界を整頓する振興策を打ち出した。それ以来、プロでの八百長事件が断絶し、各世代のアマ野球チーム数が増え、選手の受け皿も広がってきた。この流れから見れば、実行力と資金を持ち、アマ・プロを巻き込む振興政策が出せる台湾政府は協力関係が薄いプロ野球と野球協会との間の潤滑剤となる。このように、台湾の野球界において、政府機関の力が力強く介していると観察できる。

第2項 日・韓・台のプロ野球の仕組みにおける共通・相違点

表4-2-2 日・韓・台のプロ野球における共通・相違点

		NPB（日）	KBO（韓）	CPBL（台）
リーグ仕組み	同	全チームが（1）リーグのトップ機構に属し（2）二軍持ち		
	異	チーム側主導型	リーグ側主導型	チーム側主導型
チーム	同	企業チームが中心		
	異	安定な12チーム体制	大きなチーム変遷	
選手獲得	同	新人ドラフトの開催		
	異	一回のみの 新人ドラフト	新人ドラフトが 2回実施	一回のみの 新人ドラフト
選手平均月給	異	330万円弱	125万円弱	56万円弱

日・韓・台のプロ野球リーグの仕組みにおいて、ほとんどのチームが企業チームであることが主な共通点である。相違点として、NPBとCPBLにおいて、リーグによる事業は主にポストシーズン・オールスターの主催、国代表チームの関連業務の実行などに留まっている。ビジネス面における権利義務（入場料、放映権の管理）は主にチーム側に帰属しており、リーグ側よりも

各チームが持っている権限が高いと観察できる。このように、NPB と CPBL はチーム側主導型のリーグ仕組みとなっている。KBO において、入場料以外に、関連グッズ、スポンサーシップ、放映権である三つの事業は主にリーグ側によって一括して推進され、関連グッズと放映権料の収益も各チームに配分する仕組みである。そこで、KBO ではチーム側よりもリーグ側が主導する傾向が強いと伺える。

日・韓・台のプロ野球のチームにおける共通点は、ほとんどのチームが企業チームである。しかし、NPBが2004年以降に12球団体制を維持してきたのに対して、KBOとCPBLが発足時から今にかけて、最初の6球団の中に今まで経営し続けてきたのはどちらも2球団のみである。KBOとCPBLの球団変遷が非常に激しかった。一方、CPBLにおける解散したチームが続出したのとは違い、KBOでは、特に近年において、多くのチームが親会社の変更または新チームの新規参入がうまくできたのは、今韓国の大型企業がプロ野球へ参入する意欲が依然高いことを示唆する。

日・韓・台のプロ野球チームにおいて、高・大学生と社会人選手などを指名する新人ドラフトを通して、選手獲得を果たすのは共通点である。その中に、KBO では新人ドラフトにさらに一次指名と二次指名を分けている。二次指名はNPB と CPBL の新人ドラフトに類似する一方、一次指名は各チームが本拠地に在籍する卒業年度の高校生と本拠地の高校を卒業した大学生を対象とする制度である。このようなチームが本拠地の選手のみ指名できる制度はプロ野球が地域の高・大学世代のアマチュア野球への支援手段だと捉える。

しかし、KBO の一次指名では大学生も指名できるものの、日・韓・台プロ野球における近年の新人指名の結果から見ると、NPB と CPBL よりも高校生選手に偏重しているのが著しい。それに対して、この2、3年間にNPB と CPBL の新人ドラフトでは、指名された高校生の数は徐々に上昇してきたが、高・大校生以外に、指名された社会人、海外リーグ経験者と独立リーグ選手の割合はどちらも5%以上占めている。このように、NPB と CPBL のチームはKBO よりもアマチュア野球の新人選手を幅広く受け入れていることがわかった。

日・韓・台プロ野球の中に、CPBL における選手給与が最も低いほか、初めてのプロ入りが自国のCPBLではなく、外国リーグにした台湾人アマチュア選

手数も NPB と KBO より遥かに多い。それは CPBL にとって、優秀な新人選手が流失することを示唆するだけではなく、CPBL の選手給与と合わせて見ると、台湾プロ野球の選手給与とチーム数の低さは優秀なアマチュア選手を自国のプロ野球に吸引できない不利要素となることが推測できる。

第3節 日・韓・台合同プロ野球リーグの開催への提案

米国の MLB が創造した巨大ビジネスと全地球への人材獲得網によって、その周辺国のプロリーグらは MLB へ優秀な選手を送り出すシーズンの短い冬季リーグと化した。そして、近年 MLB のビジネスの展開もアジアに広げようとした。(李、2014) は中国では MLB 発展中心という MLB アカデミーが設置され、中国の一般高校の中に MLB が直営の野球部を植え付けようとする指摘した。2010 年に開幕したオーストラリアン・ベースボールリーグ (ABL) の運営には、開幕からの 5 年間に於いて、MLB からの出資・支援もあった⁴²。つまり、いずれも 25 年以上の歴史があるこの三ヶ国のプロ野球リーグはしっかりとするリーグの仕組みで独自運営をすることができると捉えている。

現在、東アジア各国のプロサッカーリーグにおけるサッカークラブが参加する AFC チャンピオンズリーグ (ACL) が毎年開催され、一年間にわたり、サッカークラブ同士がリーグの優勝を競う国際的なプロサッカーリーグ戦である。

表 4-3-1 AFC チャンピオンズリーグの試合制度

主催者	アジアサッカー連盟
開始年	1967 年
開催日程	概ね毎年 1 月～11 月
開催方式及び会場	予選→グループステージ→ノックアウトステージ アジア各地域のスタジアムにて同時開催
参加チーム数	46 (2018 年)
参戦国・地区	AFC46 会員国・20 地区

⁴²出典：TSNA、「带你認識澳洲職棒」<http://www.tsna.com.tw/tw/news/show.php?num=13330>
(最終検索日：2018 年 12 月 15 日)

チーム構成	各地域のリーグ・カップ戦の上位クラブチーム
優勝者への待遇	当年度の FIFA クラブワールドカップへの出場権を付与

出典：AFC ホームページより筆者作成

当リーグ戦の第 2 ステージであるグループリーグでは、出場チームを東地区・西地区に分けるほど、参戦するサッカークラブの数が極めて多い。さらに、リーグ戦も同時にアジアの国々におけるスタジアムでキックオフし、チャンピオンズリーグ自体及び、リーグ戦に出場する各国のクラブチームにとって、国際的な露出度は非常に高い。

また、近年日・韓・台のプロ選手ともが参戦する「アジア・ウィンターリーグ・ベースボール（AWB）」も毎年 11 月から 12 月にかけて、台湾にて開催されている。

表 4-3-2 アジア・ウィンターリーグ・ベースボールの試合制度

主催者	台湾プロ野球 CPBL
開始年	2012 年
開催日程	毎年 11 月～12 月
開催方式及び会場	レギュラーシーズン→プレーオフ→優勝決定戦 台湾におけるプロ野球スタジアム
参加チーム数	5（2018 年）
加盟国・地区	日本・韓国・台湾
チーム構成	日・韓・台のプロ野球選抜チーム、日本社会人選手から構成された JABA 選抜チーム (若手選手が各チームの中心メンバー)

出典：亞洲冬季棒球聯盟ホームページより筆者作成

当リーグ戦は冬季の台湾における温暖な気候を利用し、若手選手の育成を目的とした。現在は日・韓・台を中心にリーグ戦を実行しているが、以前にも欧米混合チーム（欧州プロチーム、北米マイナー・独立リーグの所属選手が中心メンバー）、ドミニカ代表チームがリーグに参戦した実績がある。

筆者はこのウィンターリーグの開催を日・韓・台の野球選手・組織が協力し、東アジアの野球振興が推進できる証と捉えている。しかし、従来、日・韓・台は独自の発展を遂げてきて、MLBの影響を強く受けてこなかったが、近年、大谷翔平（日）、呉昇桓（韓）、陳偉殷（台）等のようなトップレベルの選手がMLBに移籍することで、MLBの影響力が高まっているのも事実である。その対応策として、戦後は独立して各々成長を遂げてきた日・韓・台において、連携した取り組みが必要であると考え。そこで、以下のように、現存のAFCチャンピオンズリーグ及びアジア・ウィンターリーグ・ベースボールの試合制度を参考にし、日・韓・台の合同によるプロ野球リーグの開催を提案したい。

表 4-3-3 日・韓・台合同プロ野球リーグの開催への提案

主催者	日本プロ野球 NPB、韓国プロ野球 KBO、 台湾プロ野球 CPBL
開催日程	毎年 3 月下旬～11 月上旬
1 球団試合数	125（5 回総当たり）
開催方式及び会場	レギュラーシーズン→プレーオフ→優勝決定戦 日・韓・台のプロ野球スタジアムにて同時開催
参加チーム数	26
加盟国・地区	日本・韓国・台湾
チーム構成	日・韓・台プロ野球の現存球団
各チームにおける 選手獲得の手段	日・韓・台連合新人ドラフト
特記事項	合同リーグの実施前に 2 軍合同リーグを試行

同じく企業スポーツである日・韓・台プロ野球は、プロリーグの仕組みが類似するだけではなく、この 3 ヶ国が地理的・時差的に近い。1 球団あたりの試合数について、各チームは合同リーグ内対戦で、5 回総当たりをし、年間 125 試合にする。そうすることで、本来試合数が比較的に多い日・韓のプロ野球チームにとって、各々の移動日に渡航する余裕が出ると考える。また、毎年日・韓・台のプロ野球がオープニングを迎える前に、この三ヶ国の

プロチームらが沖縄（NPB）⁴³と台湾（KBO と CPBL）⁴⁴において、春季キャンプを行なっている。日・韓・台プロ野球の合同リーグを本格的に実施する前に、先に2軍の合同リーグを沖縄・台湾で試行する余地があると考ええる。そうすれば、日・韓・台のプロ野球にとって、将来1軍の合同リーグを実施するノウハウと経験が蓄積できるのだろう。

このように、日・韓・台合同プロ野球リーグの開催は、この三ヶ国のプロ野球を一斉に国際進出することが可能となる。そして、合同プロ野球リーグはこの三ヶ国の野球組織間の協力への深化及び、MLB による一強構図と味違う「東アジア野球圏」を築くことに導くのだろう。

第5章 結論

本研究では、MLB の海外展開に影響されなかった日・韓・台のプロ野球をテーマに、日・韓・台におけるアマチュア野球界及びプロ野球リーグ構造を比較することで、東アジアの野球界の発展策に関する示唆を得たいことを目的とした。目的を達成すべく、日・韓・台のアマチュア野球界とプロ野球リーグに関する文献調査を行い、戦後野球史の時系列の整理、アマチュア野球の構図、プロ野球リーグの仕組みを比較し、分析を行った。

日・韓・台に関する戦後野球史について調査を行った結果、日本とかつて日本帝国の支配下に入った韓国・台湾が戦前に築いたアマチュア野球の礎を元に、MLB に影響されず自ら国内の野球を発展させてきたとわかった。現在日・韓・台におけるアマチュア野球界の構造について調査することで、日本の小・中学校世代は学校チームだけではなく、地域のクラブチームも全国各地で活動するのに対して、韓国と台湾の全世代の野球は主に学校チームを中心とする。一方、学校単位のチームがアマ選手の主な受け皿となる韓国と台湾の野球界は少数な野球組織が統括する構図であることがわかった。日・韓・台プロ野球の仕組に対する文献調査を通して、プロチームにおける権利

⁴³出典：産経新聞、「沖縄おもてなし 春季キャンプ活況、サッカーは過去最高に スポーツツーリズムの成功例」<https://special.sankei.com/a/sports/article/20190201/0001.html>（最終検索日：2019年2月6日）

⁴⁴CPBL STATS、「2019 CPBL, KBO Spring Camp Taiwan」<http://cpblstats.com/2019-cpbl-kbo-spring-training-locations-taiwan/>（最終検索日：2019年2月7日）

義務の帰属、チーム変遷、新人ドラフト、選手給与といった面では異なるが、企業チームによってプロ野球を構成するのがこの三ヶ国の共通点だとわかった。

そこで、近年東アジアに進出しようとする MLB への対応策として、筆者は現存する AFC チャンピオンズリーグ及びアジア・ウィンターリーグ・ベースボールの試合制度を参考にし、同じく企業スポーツかつ地理的、時差的に近い日・韓・台による合同プロ野球リーグを提案した。日・韓・台には一丸となって、MLB による一強構図と味違う「東アジア野球圏」を築くポテンシャルがあると結論づけた。

第 6 章 謝辞

本研究を完成させるのには、自分一人の努力だけではありませんでした。この 2 年間の中に、論文に対して平田竹男教授からのご丁寧かつ細かい御指導を頂きました。今回の論文審査に当たり、副査を務めていただいた中村好男先生と児玉有子先生から貴重なご指摘を頂きました。研究に行き詰まりを抱える度に、同じく副査を務めて頂いた日下部大次郎先生は常に分かりやすいご意見で問題点を解説して頂きました。この場で 4 名の先生にお礼を申し上げます。

また、2 年生コースの先輩である畔蒜洋平氏は論文の方向性に対して、多大なご建言を頂きました。同期の河野遼兵氏、吉鹿奈三子氏、佐々木大氏、鈴木陵介氏と藤本洋平氏は論文への貴重なコメントだけではなく、この 2 年間の勉学生活にも多大なサポートをしてくださいました。同期の王翀氏とお互いに応援し合い、この 2 年間の留学生活における大切な仲間でした。そして、後輩である三好優太郎君に論文資料を細かく整理して頂きました。最後に、韓国語資料の整理の際に、友人である趙俊泳氏及び李紹焞氏から多大な協力を頂きました。多くの方々から助力して頂いたおかげで、論文が完成することができました。色々な形で論文に携わってくださった全ての方々にお礼を申し上げます。

平田竹男教授の研究室に勉学してきたこの 2 年間は、平田先生が教えて頂いた「辛いことを経験したことこそ、人生のプラスになる」という一言のよ

うに、今までの留學生活、勉強、就職活動に向き合い、乗り越えていました。人生を大きく変えた貴重な機会を与えてくださった平田研究室で学んだことを心に押え、今後の人生を歩んでいきます。

第7章 参考文献

1. 小野容照、2017「帝国日本と朝鮮野球」。中央公論新社
2. 石原豊一、2013「ベースボール労働移民－メジャーリーグから野球不毛の地まで」。河合出版
3. 平田竹男、2017「スポーツビジネス最強の教科書（第2版）」。東洋経済新報社
4. 林丁國、2009「日治時期臺灣網球羽棒球運動的島内外競賽表現」
5. 李彤楓、2014「中国のプロ野球リーグ CBL に関する研究」
6. 趙晉文、2008「台灣棒球運動電視轉播之歷史分析」
7. 施姿君、2017「台灣與韓國職棒文化的比較研究－球場印象管理、球星崇拜與球迷忠誠度觀點」
8. Hayley Jang, Young Hoon Lee、2016「A Business Analysis of Asian Baseball Leagues」
9. 楊舒帆、2016「台灣棒球運動政策社群關係之探究－以振興棒球運動總計畫制定過程為例」
10. 公益財団法人全日本軟式野球連盟
<http://jsbb.or.jp/>（最終検索日：2018年12月19日）
11. 公益財団法人日本中学校体育連盟
<http://njpa.sakura.ne.jp/>（最終検索日：2018年12月19日）
12. 公益財団法人日本高等学校野球連盟
<http://www.jhbf.or.jp/>（最終検索日：2018年12月19日）
13. 公益財団法人全日本大学野球連盟
<https://www.jubf.net/>（最終検索日：2018年12月19日）
14. 一般財団法人全日本野球協会
<https://www.baseballjapan.org/jpn/>

- (最終検索日：2018 年 12 月 19 日)
15. Korean Baseball Softball Association
<http://www.korea-baseball.com/> (最終検索日：2018 年 12 月 3 日)
16. Korea Baseball Organization
<http://eng.koreabaseball.com/> (最終検索日：2018 年 12 月 3 日)
NEWS PICKS、「【新】 メジャーリーガーを生み出す韓国野球超エリート主義」2016/5/11
<https://newspicks.com/news/1545185/body/>
(最終検索日：2018 年 11 月 6 日)
17. 韓国プロ野球応援サイト「ストライク・ゾーン」
<https://www.strike-zone.jp/> (最終検索日：2018 年 12 月 1 日)
18. 痞客邦 運動邦、「韓国職棒基層回饋新制 吸引三級棒球成立球隊」
2012/10/17
<http://channel.pixnet.net/sport/article/baseball/ottocat/28306403>
(最終検索日：2018 年 10 月 27 日)
19. 自由時報 自由體育、「韓職出資成立 韓國獨立聯盟 4 月底開打」2017/4/7
<http://sports.ltn.com.tw/news/breakingnews/2028844>
(最終検索日：2018 年 10 月 27 日)
20. 中華民國學生棒球運動聯盟官網
<http://www.ctsbf.edu.tw/index-index.html>
(最終検索日：2018 年 10 月 12 日)
21. 教育部體育署、「104 學年度學校體育統計年報」
(最終検索日：2018 年 12 月 10 日)
22. 中華職棒大聯盟全球資訊網 The Official Site of CPBL
<http://www.cpbl.com.tw/> (最終検索日：2018 年 12 月 18 日)
23. 台灣棒球維基館
<http://twbsball.dils.tku.edu.tw/wiki/index.php?title=%E9%A6%96%E9%A0%81> (最終検索日：2018 年 12 月 18 日)
24. プロ野球データ管理室
<http://www.din.or.jp/~nakatomi/record/hensen.html>

25. full-count、「2005 年～2016 年の各球団ドラフト指名選手一覧」
2015/10/22
<https://full-count.jp/2015/10/22/post20735/>
(最終検索日：2018 年 12 月 19 日)
26. よろず堂通信、「ドラフト会議 2018/結果速報！プロ野球各球団の指名獲得選手一覧」2018/10/25
<http://yorozu-do.com/baseball-draft4/>
(最終検索日：2018 年 12 月 20 日)
27. スポーツナビ+、「韓国プロ野球の新人ドラフト指名方式 (2016ver.)」
《韓非資》コラム
<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/datekorea/article/129>
(最終検索日：2018 年 1 月 30 日)
28. スポーツナビ+、「韓国ルール 5 ドラフト「2 次ドラフト」とは？」《韓非資》コラム
http://sp.plus-blog.sportsnavi.com/datekorea/article/140?article_page=1
(最終検索日：2018 年 1 月 30 日)
29. 韓国職棒台湾粉絲團
<https://www.facebook.com/kbotaiwanfansclub/>
(最終検索日：2018 年 12 月 20 日)
30. pb+、「KB0/韓職選秀結果出爐，二刀流姜白虎榮登狀元」2017/9/11
<http://media.pbplus.me/26022> (最終検索日：2018 年 12 月 20 日)
31. 聯合新聞網、「聯盟平均月薪 15.6 萬元 遠不如美日韓職」
<https://udn.com/news/story/7001/2499748>
(最終検索日：2018 年 12 月 19 日)
32. 毎日新聞、「プロ野球平均年俸 2 年連続増 トップはソフトバンク」
2018/5/15
<https://mainichi.jp/articles/20180516/k00/00m/050/103000c>
(最終検索日：2018 年 12 月 19 日)
33. s-korea.jp、「日本には遠く及ばない？日・韓プロ野球の「選手年俸」を

比較してみた【2018 開幕版】」 2018/4/3

<http://s-korea.jp/archives/32541>（最終検索日：2018 年 12 月 19 日）

